

総合目録データベースの品質向上に向けて

- 今、図書目録作成現場でできること -

第 1 班

大綱浩一（京都大学）

菅野朋子（一橋大学）

竹下啓行（岡山大学）

渡邊伸彦（京都大学）

1. はじめに

1.1.NACSIS-CAT/ILL の課題

書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト最終報告(平成 17 年 10 月)によれば、近年、NACSIS-CAT/ILL の「共同構築」「学術情報資源の共有」という基本的な理念の衰退が疑われる、次のような現象が起きている。

- ・ 図書書誌レコードの重複率の上昇に代表される総合目録の品質の劣化

図 1 「NACSIS-CAT 図書書誌レコード新規作成研修と削除件数」 参照

レコード削除率が 2 年で 2.4% から 7.3% へ上昇していることがわかる。

- ・ 雑誌所蔵レコードの未更新率の上昇
- ・ ILL の謝絶率の上昇に見られる ILL サービスの品質劣化

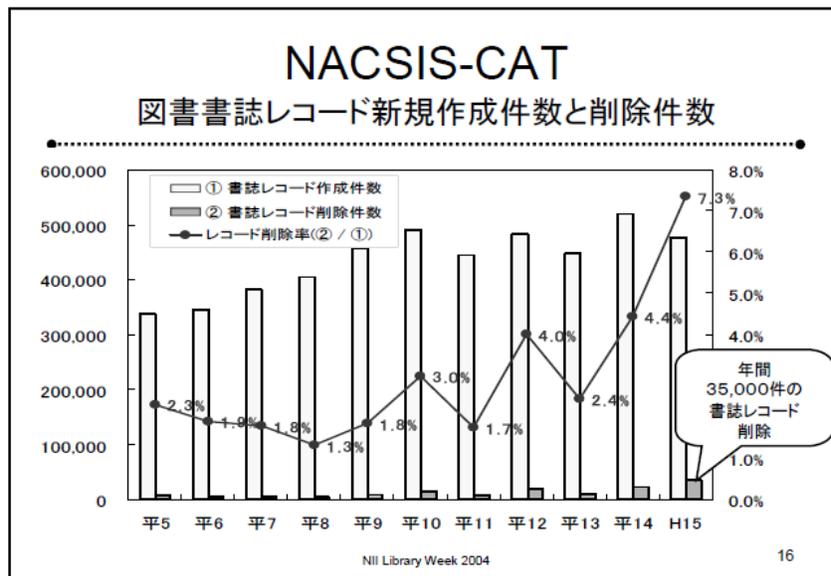


図 1

(NII Library Week 2004 資料より)

1.2.NACSIS-CAT/ILL の課題に対する国立情報学研究所 (NII) のアクションプラン

国立情報学研究所では、上記の最終報告に先立って作成された、書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト中間報告(平成 17 年 4 月 14 日)の「6. 現状課題低減化のための応急策検討の提案」で提案された、次の 6 項目に対してアクションプランが策定され、順次具体的な展開が進められている。

- (1) NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン
- (2) 外注のための仕様書モデルの提示
- (3) 研修の強化と資格・認定制度の提案

- (4) 図書書誌レコード調整方式の改善
NACSIS-CAT レコード調整方式検討ワーキング・グループ報告書(平成 18 年 3 月)
- (5) 雑誌所蔵更新への強制力
- (6) 図書館評価のための基礎的数値の開示

1.3. 参加館の目録作成現場から感じる問題点・課題

上記(4) 図書書誌レコード調整方式の改善に関して検討を行った、NACSIS-CAT レコード調整方式検討ワーキング・グループ報告書(平成 18 年 3 月)では、参加館の目録作成現場では次のような問題点があることが指摘されている。

- (1) 不公平感の存在
- (2) 参加館内における意識・スキル・環境の差
 - ・安易に基準を満たさない不適切な書誌レコードを作成している参加館がある。
 - ・安直な修正を行い、かえってレコード調整を発生させている参加館がある。
 - ・記述に不明確な部分があっても相当数の参加館がレコード調整を行わないまま所蔵登録を繰り返したことにより、結果としてレコード調整の負担が増大してゆく傾向がある。

1.4. 図書目録作成の現場でできること

1.1.から 1.3.を受けて、第 1 班では、図書書誌レコードの品質維持のために、図書目録作成の現場でできることとして、「ガイドライン」を策定しその遵守を呼びかけることが提案する。図書書誌レコードに目標をしばった理由は、図書書誌レコードの品質向上によって、全体的に総合目録データベースの品質が向上すると考えられるからである。「ガイドライン」は、既存のマニュアルや指針をまとめるとともに、規則として明文化されていないが、最低限のルールとして皆が守らなければならないことを明文化して盛り込むことを目指した。

2. 図書書誌レコード品質維持のためのガイドライン

2.1. 検索

大原則：検索漏れのないように、検索は十二分に行うこと。

該当書誌がヒットしなかった場合は、あきらめずに、何度か検索条件を変えて検索すること。

具体的には

- ア まず、コード類(ISBN,ISSN,LCCN,NBN)で検索してみる。
コード類は必ずしも図書書誌レコード中に記入されているとは限らないので、参照レコードにヒットしたとき、あるいはノーヒットのときは
- イ TITLE,AUTH,AKEY キーなどにより検索する。
- ウ ノーヒットのときは、入力した検索キーのうちいくつかを削ってみるか、すべてのキーを削除した後あらためて別の検索キーで検索する。
(オンライン・システム・ニュースレター No.26(1990/11/9) 登録時の注意事項 より)

例えば、ISBN で十分な検索を行うことによって、約 2,000 件の重複書誌の作成を防ぐことができた。

(平成 15 年度の場合)

図 2 NACSIS-CAT 図書重複書誌レコード 参照

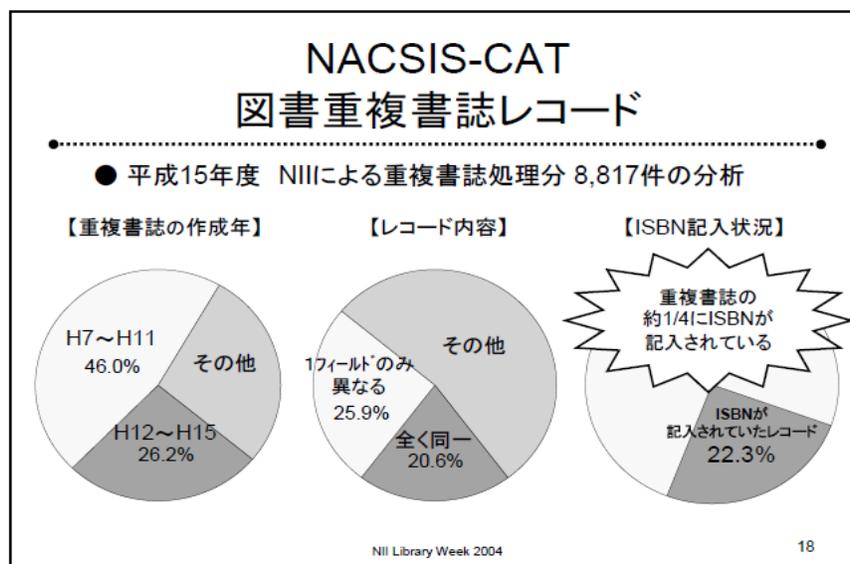


図2

(NII Library Week 2004 資料より)

また、以下の点も気をつけること。

- ・ユレが少ない検索キーを使うこと。あえてユレの考えられる検索キーを使用することは得策ではない。
 - ・ストップワードや記号などが含まれる場合は、条件や検索キーを変えて検索すること。
- 目録システム講習会テキスト図書編 p.47-48 参照

2.2. 書誌の同定

大原則：新規レコード作成の指針に基づき慎重に同定すること。

書誌の同定は、必ず書誌と現物を照らし合わせて行うこと。

該当書誌と思われるものがヒットした場合

必ず、本当に一致しているかどうかを疑うこと。

異なる書誌に所蔵登録することを防ぐことができる。

似ている書誌がヒットした場合

必ず、本当に違う書誌かどうかを疑うこと。

重複書誌の作成を防ぐことができる。

新規レコード作成の基準を満たしていないのに、新規書誌を作成してしまうことにより、結果として重複書誌が作成されるケースが多い。入念に確認することにより、重複書誌の作成を防ぐことができる。

新規レコード作成の基準を満たしているかどうかについては、必ず下記を参照のこと。

コーディングマニュアル 0.4 新規レコード作成の指針

2.3. 書誌作成

大原則：不適切な書誌を作成しないこと。

重複書誌・誤りのある書誌・入力規則に合致しない書誌を作成しないように心がけ、書誌レコードの作成指針に沿った形式で、正確に作成すること。

1) 作成前

本当に該当書誌がないか、検索キーを変えて入念に確認すること。

2) 作成時

参照マークから流用する際には、NIIの入力基準に準拠した形式で入力されているかどうか気をつ

けること。

各 MARC から流用時の注意点は、以下の通り。

JAPAN/MARC

オンライン・システム・ニュースレター No.39(1993/6/24) p.10-14 参照

TRC/MARC

オンライン・システム・ニュースレター No.40(1993/8/27) p.11-13 参照

LC/MARC

オンライン・システム・ニュースレター No.47(1994/10/7) p.6-10 参照

UK/MARC

オンライン・システム・ニュースレター No.48(1994/12/10) p.8-12 参照

DN/MARC

オンライン・システム・ニュースレター No.64(1998/10/18) p.4-7 参照

KORMARC

韓国・朝鮮語資料の取り扱い 流用入力時の注意事項

http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat_manu_han_copy.html 参照

タイプミス、変換ミス、必須項目の入力漏れがないか、入念にチェックすること。

入力必須項目については、「コーディングマニュアル 付録5 レコード項目一覧」を参照
典拠ファイルとのリンクは可能な限り張ること。

3) 作成後

わずかな時間差で複数館が同時に同じ図書に対する書誌を作成することにより、結果として重複書誌を作成してしまうケースがあるので、必ず検索キーを使って、重複書誌になっていないか確認すること。

2.4. 書誌修正

大原則：図書書誌レコード修正指針に基づき、慎重に修正すること。

コーディングマニュアル 21.0 図書書誌レコード修正指針 参照

- ・入力規則に照らして誤りでない場合は、原則として最初に作成された書誌を維持する。
- ・些細でも明らかな誤りを見逃さない。
発見館修正可能なものは、必ず修正すること。
- ・安易に修正しない。
判断に迷う場合は、安易に修正せずに、必ず作成館と協議してから修正すること。
- ・追加可能な情報は、積極的に追加すること。
- ・所蔵館へ連絡が必要な修正を行った場合は、必ず連絡すること。

修正の際は、必ず「コーディングマニュアル 21.1. 図書書誌レコード修正 修正事項一覧」を参照のこと。

2.5. レコード調整

大原則：レコード調整は、総合目録データベース「共同構築」の理念に基づき、誠実に行うこと。

* 調整依頼館（発見館）

- ・必要事項を漏れなく記入すること。 記入フォーム例は、添付資料を参照
 - 相手館に何を求めているのか（確認・修正・判断・相談など）をはっきり伝えること。
 - 修正したい内容は、根拠を示して明確に記述すること。
- ・必要な情報源は必ず添付すること。

* 調整受付館（作成館）

- ・書誌調整の依頼を受けたら、一週間以内に何らかの回答をすること。
- ・書誌調整を受けた場合、必ず内容を確認し、現物を確認し、納得をした上で、コーディングマニユ

アル第 21 章図書書誌レコード修正 に従い、所定の手続きを踏んで修正を行うこと。

- ・ 作成館は修正をした場合は、必ず発見館に修正した旨回答すること。

また、

書誌調整が不調に終わった場合は、原則として当該書誌レコードは現状のまま維持するものとする。ただし特に調整が必要な場合は、学術情報センターに対して調整を依頼することができる。

コーディングマニュアル 21.0. 図書書誌レコード修正指針 F2

原則は上記の通りだが、レコード修正指針に照らして、明らかに自分の方が正しいと思われる場合は、あきらめずに、必ず NII に調整を頼むこと。

なお、

NII への重複書誌の報告は、確実に重複していることを確認した上で行うこと。重要な相違点を見落とさないように気をつけること。

3 . おわりに

以上、図書書誌レコードの品質維持に効果が見込めるように、「ガイドライン」を考えてみたが、「あたりまえ」のことを「あたりまえ」に行うことを文章化した結果になった。

「あたりまえ」のことを「あたりまえ」に行うためには、以下の 2 点が必要だと思われる。

- 1) 総合目録データベースの理念や目録情報の基準等の入力規則などを正しく理解する。
- 2) そのためにも講習会を受講する。

また、「ガイドライン」を作成しただけでは意味がなく、実行されてこそ意味がある。自機関に戻ったら、学内的な説明の機会を設けるなど、「ガイドライン」が遵守されるようにしていく必要がある。

さらに、今回は一定の品質を維持するための「ガイドライン」を作成したが、さらに良い品質の図書書誌レコードの作成を目指すしくみを考えて行きたい。